



HARMONICA  
CONCERT



部長  
北島忠男

イギリスを発ってアメリカに渡る少し前の9月初旬にロンドンのアルバート・メモリアル・ホールでNHK交響楽団の特別演奏会が開かれました。演奏会は大成功で、盛んなアンコールに応じて最後に日本の馬子唄と八木節が演奏されました。馬子唄はフルートで静かに、八木節は弦楽器の合奏とドラムで力強く演奏されました。八木節が始まると一階の立見席に群らがっているヒッピー・スタイルの若者達は体を揺り動かし、演奏が終ると喚声を挙げ何度もアンコールを叫びました。日本を遠く離れて聴く日本の曲が私達の心の奥に今迄経験しなかった感慨を呼び起すと共にこの曲を体が堪能しているイギリスの若者達を見下ろしていると胸にこみ上げるものを感じました。演奏会が終ってからは、ホールの階段で、非常によい演奏だったと見知らぬイギリス人が幾人も話しかけ、帰りのバスの中でもプログラムを手にした沢山のイギリス人が無言でほほえみかけてくれるのでした。音楽を通じての人々の心の交流がこれ程まではっきりと知ることができたのは、今回の外国留学での貴重な収穫のひとつでした。

本日の明治大学ハーモニカ・ソサエティー秋の定期演奏会開催に際しまして、ロンドンでの思い出を綴り、ご挨拶にかえさせていただきます。今後ともソサエティーに対する御鞭撻を賜りますよう御願い申し上げます。

(カリフォルニア大学研究室にて)

<注> 北島部長の1年間にわたる海外留学により47年度に限り、  
江田三喜男助教授に代理部長を務めていただいております。

第82回定期演奏会おめでとうございます。私達明治大学マンドリン倶楽部、心よりお祝い申し上げます。

強烈なビートのきいたラテンリズム、エキゾチックなあまい調べ——たとえハーモニカ、マンドリンとかなでる楽器が異っていても音楽というものをつきつめて考えた場合、到達するところは同じところだと思います。それに加えて学生らしさと情熱をもった演奏会は必ず聴衆の感動を呼ぶものと私達は強く確信しております。本日の演奏会が大成功をおさめますよう心からお祈り申し上げます。

明治大学マンドリン倶楽部

本日、ここに貴明治大学ハーモニカ・ソサエティー第82回定期演奏会が開催されますことを我々立教、早稲田、中央ハーモニカ・ソサエティー部員一同心からお祝い申し上げます。日頃の研究心に富んだ練習と努力、そしてその50余年という伝統があいまって今宵の演奏会が成功裡に終わると共に、同じハーモニカ音楽を愛する仲間として尚一層の御発展を願ってやみません。

立教大学ハーモニカ・ソサエティー  
早稲田大学ハーモニカ・ソサエティー  
中央大学ハーモニカ・ソサエティー

吹く風にいよいよ秋の深まりを感じさせられる今宵、ここ神田共立講堂におきまして、第82回定期演奏会を迎えますことは部員一同大きな喜びとするところであります。

さて最近では“日本の美”というものが見なおされて来ています。私達は音楽の面で“日本の美”を出すべく今回は第一部に日本の歌を集め、特集としてお送りします。

何分にも勉学の合間の練習ですので未熟な点多々お気付のことと存じますが、未熟ながらも真剣に、張り切って、学生らしい態度で演奏いたします。どうぞ終演までごゆっくりお楽しみ下さい。

最後にこの演奏会の為に賛助出演して下さいました高橋キヨンスンさん、泉朱子さんならびに共立女子大合唱部の方々、又会場整理に当たって下さいました明治大学実務珠算部の方々、そして御多忙にも拘らずご来場下さいました皆様方に心からお礼申し上げます。

明治大学ハーモニカ・ソサエティー  
部員一同

明治大学ハーモニカソサエティー

第 82 回

定 期 演 奏 会

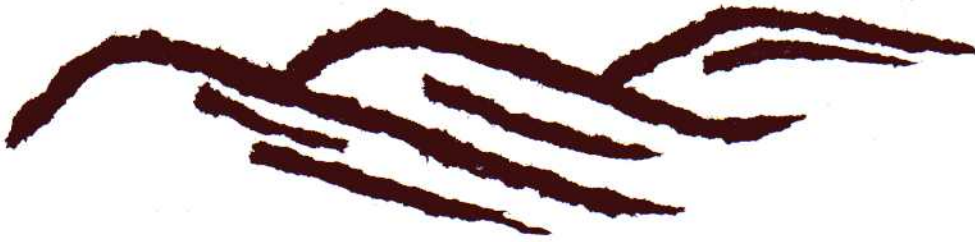


1972 年 11 月 4 日 (土)

神 田 共 立 講 堂

PM. 6 : 00

# 日本



## 浜千鳥

青い月夜の 浜辺には  
親をさがして 鳴く鳥が  
波の国から 生まれ出る  
ぬれた翼の 銀のいろ

夜鳴く鳥の かなしさは  
親をたずねて 海へえく  
月夜の国へ 消えていく  
銀のつばさの 浜千鳥

雨の島のケ城

節いこさよ

鳥千浜

唄守の子の田竹

マジャフ マジャセ

け焼小 け焼夕

# 情 詩 の

## 城が島の雨

雨はふるふる 城が島のいそに  
利休ねずみの雨がふる  
雨は真珠か 夜明けのきりか  
それとも わたしのしのび泣き

船はゆくゆく 通り矢のはなを  
ぬれて帆あげたぬいの船  
ええ 船は櫓でやる櫓は歌でやる  
歌は船頭さんの心意気

雨はふるふる 日はうすぐもる  
船はゆくゆく 帆がかすむ

